

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第1回上越市立図書館協議会

2 議題等(全件公開)

(1) 報告事項

- ・令和5年度上越市立図書館事業実績報告について

(資料1、1-2、1-3、1-4、1-4詳細)

- ・令和6年度図書館こども祭の開催実績について (資料2)

(2) その他

3 開催日時

令和6年6月28日(金) 午前10時00分から

4 開催場所

直江津学びの交流館 2階 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：小埜裕二(委員長)、上原みゆき(副委員長)、赤松雅史、内田貴代美、太田恵美、佐藤美奈子、高野省子、保坂哲、渡辺徳彦、渡邊興勝(欠席なし)
- ・事務局：小暮高田図書館長、大島副館長、丸山上席司書、山本副主幹、道場直江津図書館長、瀧澤副館長、内山上席司書

7 発言の内容

<上越市立図書館条例施行規則第20条第2項の規定により小埜委員長が議長となる>

○令和5年度上越市立図書館事業実績報告について

事務局 : 別紙資料1により概要説明

議長 : 事務局から説明のあった件について、ご質問、ご意見がありましたら
お願いいたします。

赤松委員 : 読書活動推進事業への参加者数の目標が6,000人となっていますが、
これはどういうところからきているのか教えてください。というのは、
令和4年は5,000人の目標に対して6,177人という実績があり、そし

て令和5年は目標が6,000人に対して6,424人となっています。数値目標の設定の仕方はとても難しいし、なかなか説明ができる部分ではないと思うのですが、こういうことを大事にして数値目標を決めているということがあったら教えていただけたらと思います。

大島副館長 : 全ての事業の目標に言えるのですが、予算を要求する際に、前年度やそれ以前の状況を見ながら、今年はこの程度の数であれば何とかクリアできるのではないかと、それに向けて取り組んでいこう、ということで数値を設定しております。令和4年度の目標を設定するときは、新型コロナウイルス感染症の影響がどの程度あるか先が読めなかったこともあり5,000人程度と設定をしたところ、予想よりも多くの方から参加いただけたということでした。5年度に関しましては、4年度の見込みの数字がある程度分かってきていましたので、恐らくこのくらいであれば無理なくクリアできるだろうという数字を設定させていただきました。毎年予算を立てる段階で、前年度の様子等を確認し参考にしながら、なるべくクリアができそうな数字を設定しているところではあります。

赤松委員 : 人口減少の中で、また、コロナ禍の回復途中でもありますので、目標設定というのはすごく難しいのだろうなと思いつつ今話を伺ってよくわかりました。数値はとても大切だと思いますが、それだけではないのだろうなと思っています。例えば図書館資料のインターネット予約処理件数を見ると3,984件も増えていますが未達成となっています。普通に考えるとこれだけ増えればすごいことだと思うのですが、目標にちょっと及んでいないから未達成という評価になってしまう。目標とする数値は大切で参考にしなければいけないけれども、やっぱりそれだけではないだろうなと。特にこの読書普及・自主活動事業を見ていると、いろいろな取組をしていることが分かります。去年の広報上越の1月号の巻頭特集にも出たくらい、いろいろなところで目にするようになってきて、成果はとても上がっているのではないかなと思っています。

小笠委員 : 障害者サービス事業について、未達成ということですが非常に重要な

取組だと思えます。高齢の方、一般の方も含めたサービスの拡大も視野に入れているというお話があり、確かに音声で読書をしたいという方もおられると思えますので、そういう需要もあるのだろうと思えます。そうすると障害者サービス事業という名称でいいのか、あるいはこの名称をしっかりと置いて障害者の方をまず大事にして、それからさらに枠を広げていこうというのか、その辺りの考え方について教えてください。

大島副館長 : 障害者サービスとしながらも、実際は障害者の方に対してだけではないことにも取り組んでいるわけですが、図書館として障害者に対してどのような取組をしているのか問われる機会があるため、それを分かりやすくするという事でこの名称を使っているところがございます。今は障害のあるなしにかかわらず、誰もが利用しやすいということが求められていますので、言葉としては残っておりますけれども、中身としては障害者の方に対してだけではない取組は続けていきたいと考えております。名称については今後、図書館界の中で言い方が変わったりすることもあるかと思えますので、そういった流れを汲みながら、変えていけたらとは思っておりますが、今の時点ではこの名称を使っているというところです。

小笠委員長 : 広報を含めて、市民の方に理解していただけるように進めていただけたらと思えます。

では、次に進みたいと思えます。

事務局 : 別紙資料1-2、資料1-3、資料1-4により概要説明

小笠委員長 : ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

渡辺委員 : 資料1-2の6ページですが、市立図書館と学校図書館との連携については以前から叫ばれているところで、そういうことをしたいというも思ってはいたのですが、あまりやったことがありませんでした。このように図書館による学校訪問や学校による図書館来館利用などあることが分かりましたので、どんどんこういうものを充実させていってもらって学校図書館と連携して、子どもという対象の中で市立図書館と学校図書館の利用者を増やしていけたらいいなと感じました。

- 小笠委員長 : ありがとうございます。今の件について何かございますか。
- 小暮館長 : ご意見ありがとうございます。お声掛けいただければできるだけ対応しますので、今後ともよろしく願いいたします。
- 小笠委員長 : 各学校への周知方法について、その流れは確立されているのですか。
- 丸山上席司書 : 校長会を通じて資料を見ていただくということを例年やっていますが、今年度は年度当初にできなかったため、今後、各学校の読書旬間に向けて行ってまいりたいと思います。また、そのようにご意見をいただいて大変ありがたいです。是非、渡辺委員の学校でもご予約いただけたらと思います。
- 内田委員 : 資料1-2の9ページの障害者サービスについてですが、実は私、今まで障害者サービスというものをあまり意識したことがありませんでした。そこで質問ですが、この録音図書というのはCDか何かの形になっているのでしょうか。
- 丸山上席司書 : デイジー図書と言いまして、専用の再生機器かパソコンで聞いただけのような仕組みに移行はしていますが、ご自分で操作ができないとか、家にパソコンがないという方もいらっしゃいます。かつてカセットテープで録音図書を作っていた時代があり、使い易さという意味で言えばカセットテープですとか音楽CDのような形態がいい面も実は結構あったのだと思っています。ただ、だんだん高齢の方でもパソコンなどをご自身で、またはご家族がご利用いただけるような時代に移ってきているとは思いますが、図書館ではデイジー図書の利用とそこのほかにCDの形の物を持っておりますので、ご相談でCDのタイプでお貸しすることも行っております。
- 内田委員 : ありがとうございます。CDの形だったら例えば車の中で聞くとか、年齢にかかわらず使えるのかなとちょっと思ったので。続けてもう一つお聞きしますが、資料1-2の1ページでおはなし会等の話が出まして、英語のわらべうたの会とかすごく楽しそうだなと思いました。私は子どもセンターというところで働いているのですが、実は毎月第三火曜日は赤ちゃんが集まるイベントをやっていて、参加者の取り合いにならないといいなという感想があります。時間だったり月齢年齢

だったりも考えたりしながらやっていけたらいいなど。多分ほかの子育て広場とか、いろいろな所でいろいろなものを行っているので、お話をさせていただきました。

内山上席司書：英語のわらべうたの会の曜日と時間の設定ですが、実はその辺りも把握をした上で、やっていらっしゃる方が「ここは別のところでやっている催しと重なるんだけどなあ」とおっしゃりながらやっているというところがあります。その辺り、うまく回っていけるといいなと本当に思うところです。

渡邊委員：学校の職員の立場から、読書好きの子どもを育てる大きな取り掛かりの一つはやはり学校図書館かなというふうに思っています。そういった意味で、特に小学校では学級担任が子どもたちに本の楽しさを伝えるとか、読書の取り掛かりをつくるというのはとても大事で、そして職員への研修で学級担任がそういう力を伸ばすということはとても大切なことだというふうに思っています。上越市の学校教育研究会の図書館教育部で市立図書館の司書さんから協力いただいて、ほぼ毎年研修を行っています。昨年も、直江津図書館の内山様からブックトーク等教えていただいたということで、今後もぜひ、職員の研修の場に市立図書館の皆さんからご協力をいただきたいと思いますし、市立図書館が主体の事業ではないかもしれませんが、このような場合は学校支援として十分授業の役に立っていると思っておりますので、図書館事業の実績として資料に掲載いただいてもよいのではないかと思います。

小笠委員長：連携がより密になり、その関係が太くなっていくといいですね。図書館の登録者カードのデータを整理したということについて、2年以上利用がない方のデータを外したというお話だったかと思います。ずっとその年度の数値を計りながら進めているのに、途中からデータを見直すというところ、いろいろなところで齟齬が出るのではと思ったのですが、どのような背景があったのでしょうか。

大島副館長：図書館条例施行規則で図書貸出カードの有効期間は2年としており、もともと2年というのが一つの期間になっております。しかしながら登録者データの削除の仕方について、こちらから伝えた条件が図書館

システムの保守管理会社にうまく伝わっておらず漏れ落ちがあったことが分かり、それを正したところ、想像以上に多くの方のデータが4年度末で落ちることになってしまいました。こちらとしては同じ条件でやっていたつもりだったのですが実態はそのとおりになっていなかったということです。

後ほどその他のところでお話ししようと思っていたのですが、この2年という期間で本当に良いのかというところを考えております。というのが2年はあつという間に経つ感覚があります。ちょっと仕事が忙しい、ちょっと勉強が忙しいと、図書館から足が遠のいてしまい久しぶりに使おうと思ったらもうデータがないですと言われる、ということもあるのかなと思いますので、この期間をもう少し長くすることを検討している最中でございます。それは追って皆様にご報告したいと思っておりますのでご承知おきください。実際、データを削除してから、目標数値などのデータにいろいろ影響が出たところもありまして、有効期間について考える必要があるということをおっしゃった次第でございました。

小笠委員長 : 指標というのを人口比でお出しになる、そうすると人口減少があってもカバーできる、そういういろいろと工夫されておられることは良くわかるのですが、急に20%まで下がってしまっているのはどういうことだろうかとか、あるいは図書館システムの保守管理会社との齟齬をどうしてそういう曖昧な状態にしていたのだろうかという指摘があるかもしれないので、その辺は十分把握して進めていかれたらと思います。ほかにいかがでしょうか。

太田委員 : 資料1-2の5ページの浦川原分館のイベントのブックコート講習会ですが、すごくいいなと思って見ていました。もし情報があれば教えていただきたいのですが、参加された方がどんな感想を持たれたかを知りたいなと思います。また、予算に関することですが、図書購入の予算をぜひアップしていただいて、新しい本が入るといいなと思っております。

大島副館長 : 浦川原のブックコート講習会は平日と休みの日ということで2回設定

したのですが、会場が浦川原ということもあってか、参加者は思ったよりも少なめでした。参加した方々は図書館のコートされている本を見て、自分の大切にしている本にもできたらいいなと思っていらっしやったようで、ぜひ自分でもやってみたいと参加され、喜んで帰られていた感じを受けました。また、中には自分でコートを買って、インターネットの動画を見ながらやったことがあるという方もいらっしやいましたが、独学なので実際に教えてもらえて良かったという感想をいただきました。予算に関しましては、我々もなるべくアップしていきたいと思っております、令和7年度の予算要求が秋ぐらいから始まりますが、令和6年度より少しアップする形で要求をし、なるべくそれが通るように頑張っていきたいと思っております。

佐藤委員 : 私、予約は今までもよくしていたのですが、最近初めて人気の本をリクエストしてみたら、新しく本を買っていただいて、連絡もくれて、予算に限りがある中でこんなことをしてくれるんだとちょっと感激したので、周りの方に広めたいと思います。それから、去年この委員になってから旅に出るたびにあちこちの図書館を訪問しているのですが、ちょっと噂の図書館や新しい図書館に行ってみると、すごく新しくてきれいだし立地もいいし、新しい取組がいろいろあることに気が付きました。今どきの図書館は本が少ないと感じていたのですが、背表紙ではなく表紙を見せて展示をして、厳選された本を展示してあるのですごく見応えがあるというか、読みたいと思う本があるように感じました。でも本が少ないわけではなくて、聞くと書庫などに入っているそうですね。様々な図書館のやり方があるのだなと思います。高田や直江津の図書館も、こうやって資料を見てみるとものすごくたくさんイベントや工夫した取組があって素晴らしいので、やっぱりアピールをしていったらよりいいのではないかと思います。

小暮館長 : 高田図書館が特に、2階の書架に本が並んでいる上に更に横向きに本が置いてあるのが大変目立っておりまして、乱雑という声もありました。かなり整理をしてほぼ横置きがない状態にまで今きたところです。整理した本は全て除籍するのではなく、地下やその他の書庫へ下ろし

たりしています。また、先程のお話のように表紙を見せての展示も場所によってはやっておりますが、そうすると置ける本の冊数が少なくなってしまうです。書店でもそうですけれど、棚の間をぶらぶら歩いて、見て、「あっ、おもしろそう」と見つけてもらうのも大事なかなと思うので、片付けすぎないようにするのも難しいところだと思っています。また、書庫にも本があることを知らない方も多いと思います。検索して「これを読みたいです」とカウンターに言っていただければ書庫から持ってくることもできますので、皆様、お友達などにそういうこともできるんだよとお話ししていただけたらありがたいなと思います。

小笠委員長 : ありがとうございます。大変大事なご意見だったと思います。次に進みたいと思います。では報告事項の二つ目になります、令和6年度図書館こども祭の開催実績について、に移ります。

○令和6年度図書館こども祭の開催実績について

事務局 : 別紙資料2により概要説明

小笠委員長 : このことについて、ご質問ご意見ございましたらお願いします。

高野委員 : 私たち「ジャックの会」は、高田図書館と直江津図書館と両方ともに参加させていただいていますが、やはり時間帯が「魔の時間帯」というか、そんな感じがします。土曜日の定例のおはなし会にしても、「午前中、さっきまで子どもたちがいっぱいいたのにねえ、私たちの番に引いちゃったねえ」という話をしていることもあります。一人でも二人でも来ていただけたら私たちの研修にもなるしねと思ってやっておりますが、やっぱり時間帯は本当に大事ななと思いますので、図書館の方でこの時間帯は子どもたちが集まるよという情報があれば、私たちも応じることができますので、時間の変更などぜひ意見をいただきたいなと思います。よろしくをお願いします。

小暮館長 :そこはなかなか難しいですね。日によっては、午前中は子どもたちがいなかったのに午後になるとたくさん来るといふこともありますし。ただ例えばこども祭のように二つの団体さんをお願いするときは、午前と午後で毎年交互にするといふことは考えていけるのかなと思いま

す。今後ともよろしくお願いたします。

上原委員 : 『どくしょてちょう』をつくろう!」の催しで、子どもさんそれから親御さんも本当に楽しそうにやっている姿が印象的でした。「絵本とおはなしのへや」など参加された方が少ないということも含めて、図書館こども祭自体の広報と言いましょうか、告知と言いましょうか、先程お話があったかもしれないのですが、どのような方法でどんな範囲で皆さんにお知らせをされているのかちょっと教えていただければと思います。

大島副館長 : こども祭の広報に関しましては、広報上越にはどうしても広報の締切と開催の時期のタイミングもありまして、分館は6月1日開催ですが4月25日発行の5月号に載せなければならないとか、結構、間が空いてしまう場合があったりしますけれども、基本的には広報上越への掲載、あとは市のホームページや図書館ホームページへの掲載、またSNSを使つての直前でのPR、そのほか図書館だよりパピルスへの掲載やチラシの配布などを行いました。普段図書館を利用している方に対してのアピールはそういったことでできましたが、普段なかなか図書館に来ない方に対してのアピールというと、興味を持っていれば広報上越に気が付いてくださるかもしれないのですが、もしかしたらちょっと弱かったのかなと感じる部分もあるので、そこは今後少し考えてみたいと思います。

小笠委員長 : 次の令和7年度の図書館こども祭については、午前中が多くて午後が少ないというようなことのない、何か手立てがあるといいなと思いますので、そこも含めてよろしくお願いたします。では、議題のその他に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。事務局からその他について説明をお願いします。

○その他

事務局 : 高田図書館自習室の利用状況について別紙資料により概要説明

小笠委員長 : 何かありましたらご質問ご意見をお伺いしたいのですけれども、よろしいですか。

特にないようですので、これで会を終わりにしたいと思います。進行

を事務局へお返しいたします。

(議事終了)

事務局 : 次回の図書館協議会は11月頃を予定しております。以上をもちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料もあわせて参照ください。